

第4回長野市総合計画審議会作業部会 産業部会 議事録（要旨）

月日 平成 17 年 11 月 29 日（水）

時間 午前 9 時 30 分から

場所 職員会館 3 階会議室

<ワークショップまとめ資料について>

部会長；補足意見や追加意見があればお願いしたい。

部会員；長野市の産業に特色が無いわけではなく、疎開で定着した印刷工業の集積が特色といえる。ただ、特化した産業に仕向ける体制がなかったのが問題。また、大学や研究機関も少ないわけではない。元々商業や工業を支える人や資源はあるが、生かし切っていないところが問題だ。

部会員；農業、林業は地域資源であり、人が生きるためのエネルギーであり、どう育て、活用していくかという視点が必要。食糧問題は今後世界的な問題になるが、農業や林業は自分たちを生かしてくれる宝であるという視点がないと根本的な解決にならないと思う。

部会員；日本は工業立国になって農林業が押し流された。昔の山林経営は次の世代に資産を引き継ぐために山を作ったが、今は将来像が見えないのでお金をつぎ込めない。ISOを取得した山林に付加価値が生まれている事例もあり、一人の人ががんばれば色々なことができる。若い人を引きつける施策が必要。これからの森林は体験型・観光型・学習型が中心になると思う。

部会員；この資料のとおりだと思うが、皆、考えるだけでやらないのが問題。人づくりにしても誰がどのようにやるのかということが重要。

部会員；誰がやるかという誰も出ない。何かやろうとすると足を引っ張るような考え方を改めないと飛び出す人がいなくなる。

<基本構想「施策の大綱（骨子たたき台）」産業関係の資料について>

（1 賑わいと活力を生む観光・コンベンションの推進）

部会員；「観光地」という言葉は、一度行けば終わりというイメージがあり、外したほうがいいのでは。「地域」と置き換えてもいい。地域には農業も産地もあるが、観光地というバスで連れてこられてご飯を食べて...というイメージ。

部会員；訪れる人は、農業や山の中など非日常性を抱かせるものを期待している。

専門部会；現在 1200 万人観光推進プランを策定中で、7 部会で地域と検討している。「観光」は名所・旧跡が中心というイメージだが、今は地域、まち、産業を観る観光になってきている。「観光地」を「地域」にするのは賛成。ただ、「観光」に変わる言葉はまだ出てきてないので、少しずつ表現を変えていくしかない。

部会員；東京は観光地としての全ての要素を持っているが、長野にミニ東京は必要ない。

これからは人間らしさや人間中心の地域にしていくのか、経済を重視していくのか、方向を定めておいた方がいい。

部会長；(人間性、経済性の)両方ではないか。人間らしさは重要だが、経済も大切。

(2 活力ある農林業の推進と中山間地域の活性化)

部会員；農業林業の切り口の中で、緑、水、空気、人を含めた生き物の共存が中山間地では重要な要素。

事務局；産業の中では表現が難しい部分もあるが、環境の部会では自然との共生を含めてその辺の理念を取り入れている。

部会員；中山間地は環境と調和した産業づくりもできるのでは。水力発電など、見せながら地域の経済にもつながる。鶏の放し飼い牧場でもいい。見せる場をつくりながら、産業にもなる。

部会員；食糧自給率の低下を食い止めるという表現を入れてはどうか。

専門部会；農業は今まで食料生産が目的だったが、今は農地や山林が国土や環境を保全するという面から捉え直されてきており二面性がある。食糧自給率は重要な視点だが、それだけではないので基本計画に向けた要素の一つに入れ込んではどうか。

部会員；農業の「高付加価値化」とともに「生産性の向上」の言葉を入れてはどうか。また、「消費と結びついた」というのは分かりにくいので、「消費者のニーズ」、「消費者を意識した」など噛み砕いた表現にしたほうがいいのでは。

専門部会；高付加価値化としては、市場法の改正などで農協を通す系統出荷から産地直送などに広がってきて、同じ米でも無農薬などの付加価値を付けないと売れなくなっている。消費があれば生産が伸びるが、農業は作りすぎると安くなって儲けがでなくなるといった面もある。生産者には安定供給が求められている。

部会員；生産性は出来高の話で高付加価値化は利益の話。

部会員；単位当たりのコストのことを言っている。

部会員；単価と数量の問題は密接に関わっている。利益を確保するには付加価値生産性を高めることが必要で、利益が出なければ投資もできない。ここで言う高付加価値化はそういう意味で取っている。

部会員；農業では温暖化現象の影響が増えており、産地の移動や新しい農業が入ってくるのではないかと思う。その辺の新しい方向を見つけるというようなことを盛ってはどうか。

専門部会；温暖化で山梨ではいいワイン用葡萄がとれなくなり、産地が長野に移ってきた。

ここで謳い込むことではないが、環境と農業は密接で、農業には環境を保全する側面があり、それを守るために担い手確保などの支援が出てくる。

(3 特色ある産業の集積と工業の高付加価値化)

意見なし

(4 魅力と賑わいあふれる商業の振興)

意見なし

(まちづくりの方向性、タイトル、全体)

部会員；全国どこに行っても同じタイトルになる。もう少し長野らしさや想いが入らないかと思った。視点の言葉をうまく組み合わせてみては。

事務局；確かに全国同じようになっているのは事実。福祉や環境など他の部会もあるので、全て長野らしさが出るかどうか。全体で調整が必要。また、審議会では基本構想の中で「将来像」を検討していくが、この中で長野らしさのや想いの議論もあると思う。

部会員；テクノハイランド構想で善光寺バレーと名付けた。善光寺、世界の中の長野など、キーワードはあると思う。これからは情報戦なので考えていただければと思う。

部会長；次回の会議で審議会への原案としてまとめていきたいので、本日の意見を踏まえて次回またご審議いただきたい。

< 基本構想「施策の大綱（骨子たたき台）」行財政運営関係の資料について >

部会長；本日は時間がないので、事務局から説明のとおり、意見があれば用紙に記入して事務局に送るようお願いしたい。

< その他（次回以降の日程説明、参考資料について） >

事務局；参考資料「長野市の産業（抜粋）」は第1回部会で長野市の産業が全国、県内でどのあたりに位置しているかという質問があったので、その参考としてご覧いただきたい。